

消防本部庁舎と保土ヶ谷消防署の整備事業は、現行の保土ヶ谷消防署を移転整備し、その跡地に消防本部庁舎を新たに整備する事業です。

本年12月現在、消防本部庁舎は基本設計を終え、実施設計を進めています。

また、保土ヶ谷消防署は、土壌汚染対策工事を終え、建築工事に着手しています。

## 【消防本部庁舎】

### 1 事業の目的

本市において大規模な地震などが発生した場合、現状では消防通信指令システム設備等の重要機器が損傷する恐れがあります。

また、情報収集機能の中枢である司令センターが消防本部と別棟になっていることや、本市に派遣される緊急消防援助隊など関係機関を、迅速に受け入れる機能が不足していることが課題となっています。

こうした課題を解消し、「安全安心を実感できる防災都市横浜」を実現するため、消防防災活動の中枢となる消防本部庁舎を整備します。

### 2 コンセプト及び基本設計概要

コンセプト	具体的な設計内容
① 消防機能を継続発揮できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防本部機能の継続性確保のため、<b>免震構造の庁舎</b>に消防通信指令システム設備を整備するほか、水害に備え、<b>重要機器や諸室を上階に配置</b>します。</li> <li>継続した電力確保のため、<b>非常用発電機の多重化</b>や<b>7日分の燃料</b>を備蓄します。</li> <li>大規模災害時でも消防機能が発揮できる、<b>自走式地下駐車場</b>を整備します。</li> </ul>
② 迅速かつ機動的に消防本部機能を発揮できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速な情報処理や意思決定を行うため、<b>司令センター、消防本部運営室及び消防本部会議室を一体的に整備</b>します。</li> <li>緊急消防援助隊（指揮支援隊）等と連携を強化するため、<b>緊急消防援助隊受援室</b>やヘリコプターの<b>飛行場外離着陸場</b>を整備します。</li> </ul>
③ 社会の変化に柔軟に対応できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍推進を踏まえ、更衣室を集約し、<b>男女の職員数の変化に応じて更衣室の間仕切り位置を柔軟に変えられる機能</b>や<b>寝室の個室化</b>等を図ります。</li> <li>性別に捉われずに誰もが働きやすい環境を整備するため、<b>多目的更衣室</b>や<b>多目的トイレ</b>を整備します。</li> </ul>

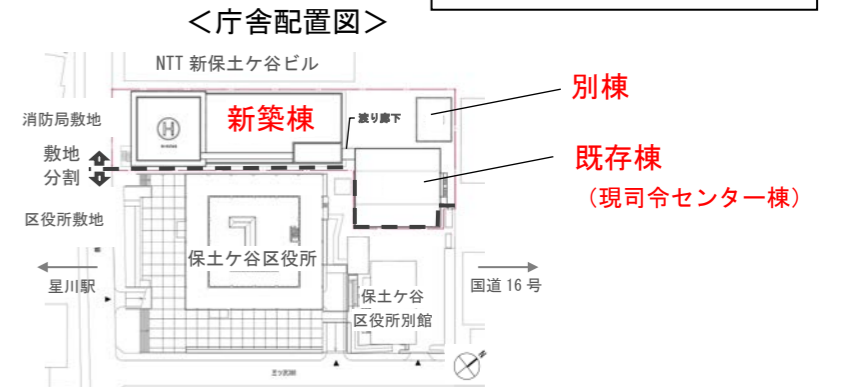
### 3 建築概要

新たな消防本部庁舎は、新築棟、別棟、既存棟（現司令センター棟）の3棟により構成されます。

- |   |   |
|---|---|
| (1) 計画地<br>保土ヶ谷区川辺町2番地9   | (3) 構造概要<br>新築棟（高さ31m）：地下1階/地上7階/塔屋2階<br>鉄筋コンクリート造+プレストレストコンクリート造<br>（1階柱頭部中間層免震構造） |
| (2) 計画概要<br>敷地面積：3,250㎡<br>建築面積：2,272㎡<br>延床面積：14,396㎡<br>（新築棟11,019㎡、別棟435㎡、既存棟2,942㎡） | 別棟（高さ15m）：地上3階<br>鉄骨造（耐震構造）   |
|   | 既存棟（高さ24m）：地上5階/塔屋1階<br>鉄骨鉄筋コンクリート造（耐震構造）   |
|   | (4) 飛行場外離着陸場（新築棟屋上）<br>当局消防ヘリ（AW139）に対応<br>ヘリパッド床面（23.3m×23.3m）                     |

### 4 棟別の主な機能

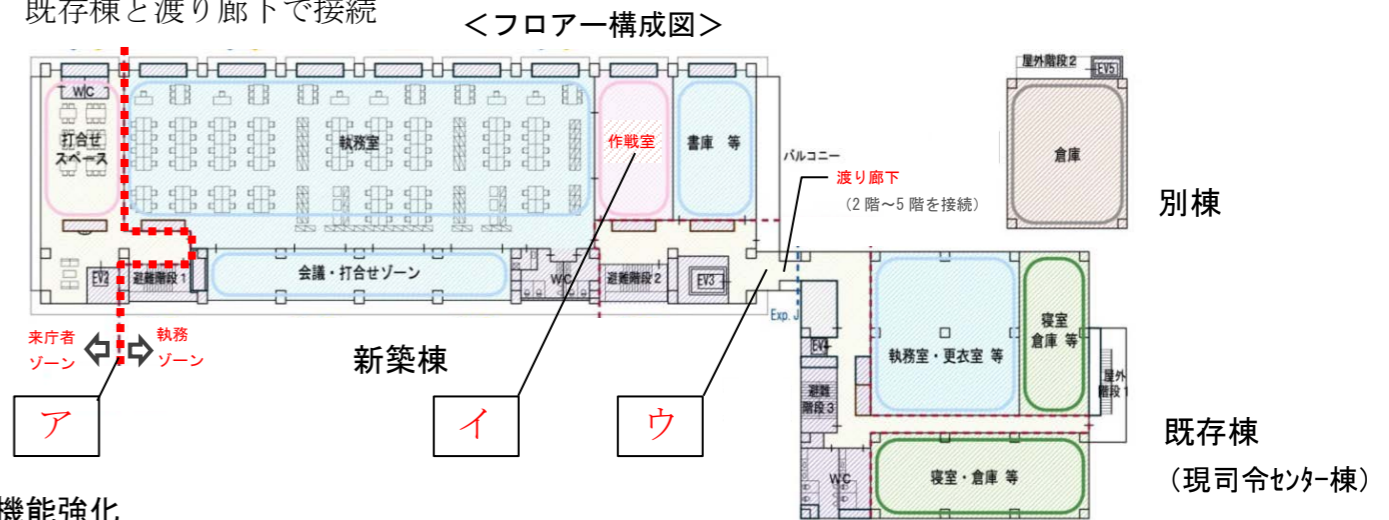
- 新築棟**  
消防本部機能の継続性に必要な中枢機能を配置
- 別棟**  
消防業務に必要な資機材や物品を保管する倉庫等を配置
- 既存棟（現司令センター棟）**  
当直職員に必要な機能を中心に配置



### 5 庁舎の特長

- 新築棟の各部（予防部・警防部・総務部）フロアーの基本構成（2、3、7階）**

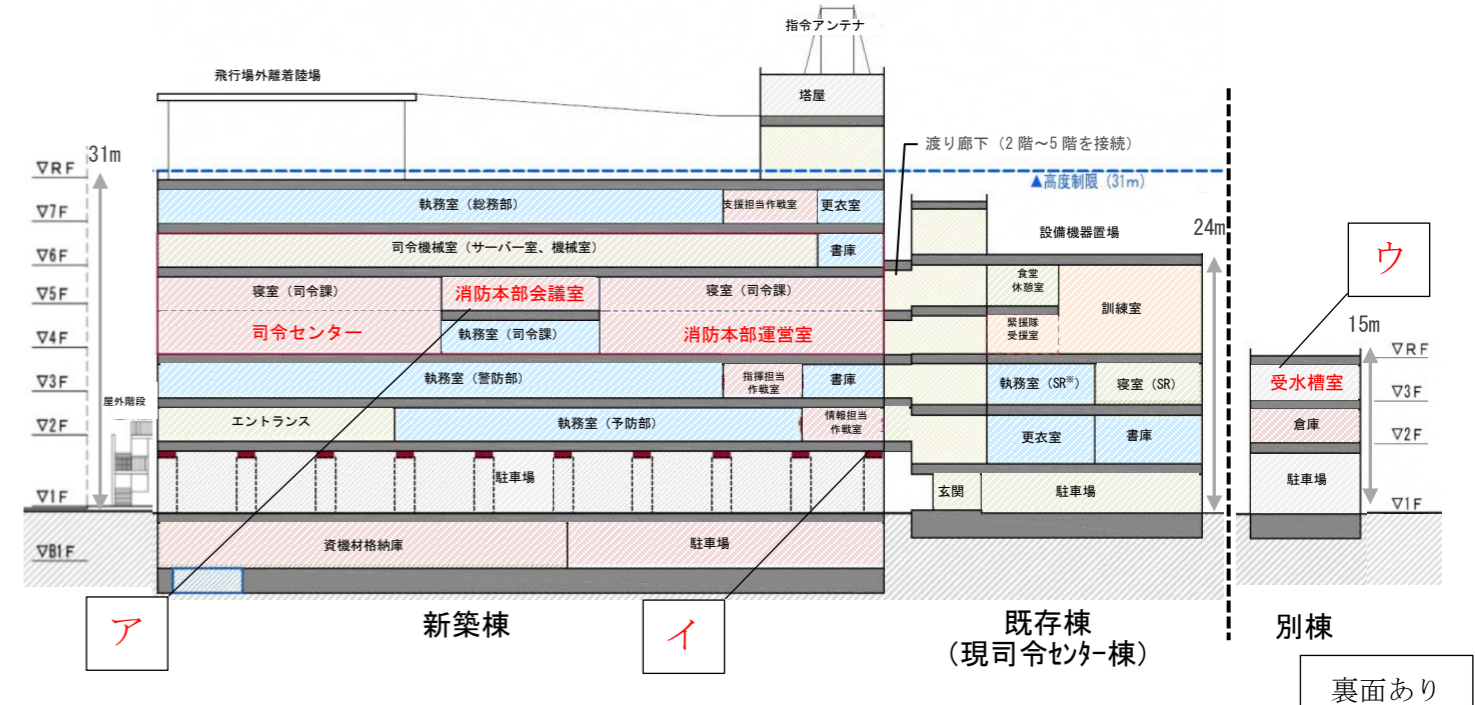
- ア 来庁者ゾーンと執務ゾーンを明確に分離
- イ 災害対応を行う作戦室を配置
- ウ 既存棟と渡り廊下で接続



- 機能強化**

- ア 新築棟4、5階に災害対応機能の中枢となる司令センターや消防本部運営室、消防本部会議室を建物中央に一体的に配置
- イ 大規模地震や水害時の機能継続を踏まえて、新築棟の1階に柱頭免震を採用
- ウ 別棟上階に浸水想定を踏まえて受水槽を設置

＜庁舎断面図＞



※SR：特別高度救助部隊

裏面あり

## 【保土ヶ谷消防署】

### 1 事業の目的

現在の保土ヶ谷消防署は、築49年が経過し老朽化が顕著であり、人員・資機材の増加による狭あい化が進み、事務執行や災害対応の地区本部運営等のスペースも不足しています。これらの課題を解消するため移転整備し、機能強化を図ります。

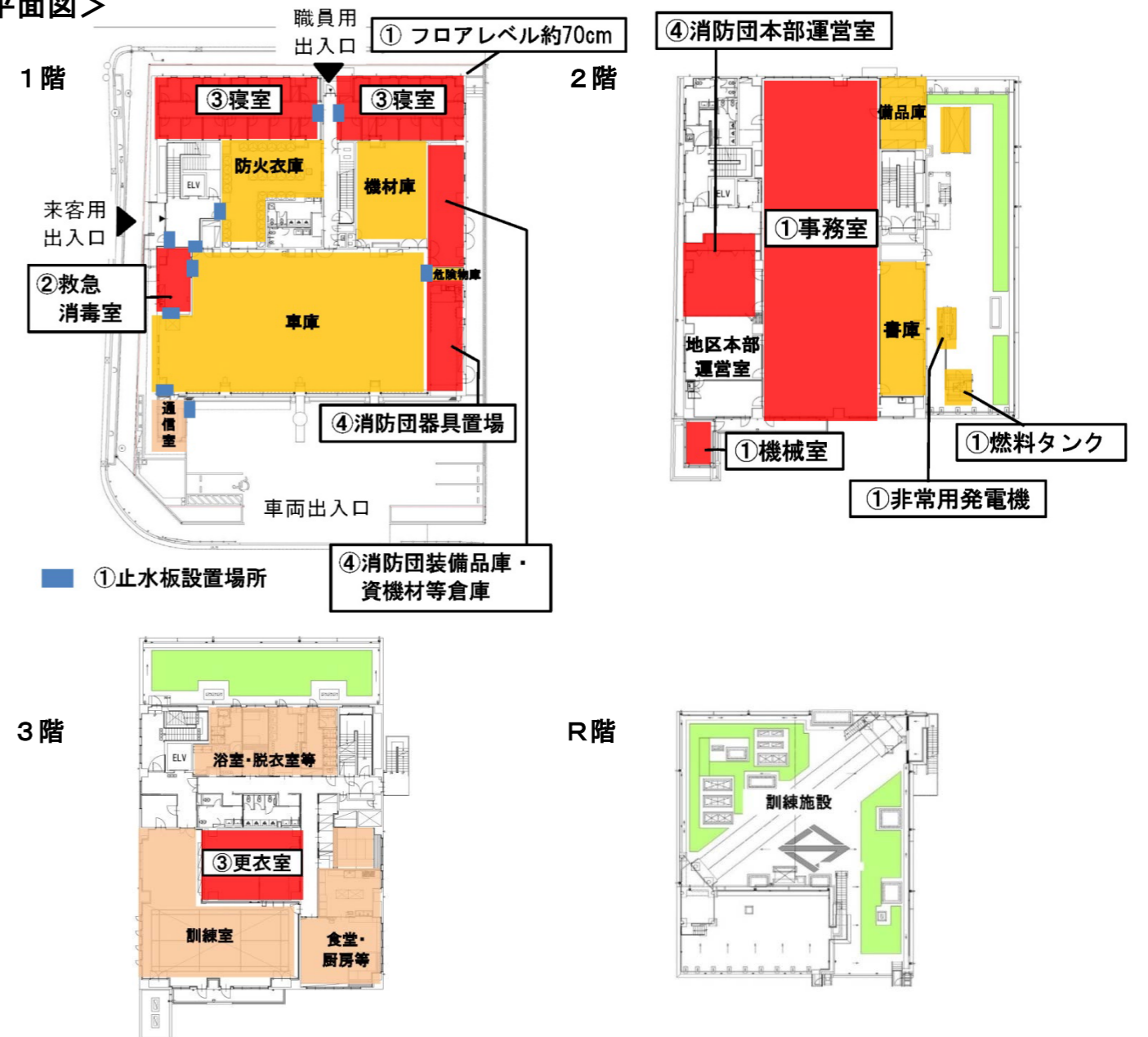
### 2 機能強化

機能強化	具体的な整備内容
① 浸水等を考慮した諸室の配置	最も低い地盤面からフロアレベルを約70cm上に設定及び一部止水板の設置並びに事務室、機械室及び非常用発電機等の上階設置
② 救急消毒室の整備	救急資器材の洗浄等、救急活動における感染防止を図るための機能を整備
③ 将来的な女性職員の増加にも対応可能	寝室を個室化するとともに男女比率に合わせ、男性用と女性用の寝室の数及び更衣室の広さが変更可能
④ 消防団機能の強化	消防団本部運営室、消防団器具置場、消防団装備品庫・資機材等倉庫の整備

### 3 建築概要

- |                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| (1) 施工場所 : 保土ヶ谷区神戸町140番地の5 (市有地)   | (4) 延床面積 : 2,626.78 m <sup>2</sup> |
| (2) 敷地面積 : 1,947.95 m <sup>2</sup> | (5) 階数 : 地上3階<br>(高さ17.85m)        |
| (3) 建築面積 : 1,156.14 m <sup>2</sup> | (6) 構造 : 鉄筋コンクリート造<br>一部鉄骨造 (耐震構造) |

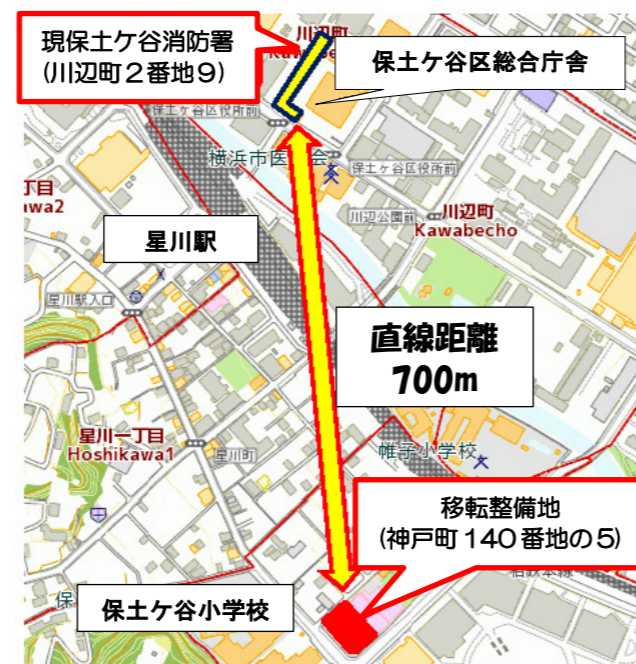
## <平面図>



## 【保土ヶ谷消防署完成予想図】



## 【移転整備地案内図】



## 【全体スケジュール】

- ・消防本部庁舎については、新築棟（別棟含む）が平成32年度に着工して35年度に完成し、既存棟の36年度の改修終了をもって、全ての棟の運用を開始する予定です。
- ・保土ヶ谷消防署は、平成32年1月に完成し、翌2月中に運用を開始する予定です。

	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	35年度 (2023)	36年度 (2024)
保土ヶ谷消防署	基本計画等	基本設計	実施設計	土壌汚染対策工事	新築工事	運用				
保土ヶ谷区役所改修					インフラ切り直し等					
保土ヶ谷消防署解体						解体工事				
本部庁舎新築棟	基本計画等		基本設計	実施設計	新築工事			一部事務機能の運用		
消防通信指令システム設備更新			基本設計	実施設計	システム開発			機器更新	新指令システム運用	全部運用
既存棟改修 (現司令センター棟)	基本計画等									改修工事

- ※ 現時点でのスケジュールのため変動する可能性があります。
- ※ 保土ヶ谷区役所改修は、解体工事及び新築工事の中でも行います。